

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岡山市立千種小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒709-0845

岡山市東区瀬戸町鍛冶屋391番地

E-mail chikusas@city-okayama.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 72 名 女子 84 名 合計 156 名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

1 取組の概要

本校では、学校教育目標の具現化の為、特色ある教育活動の推進を一つの柱として、恵まれた環境を生かした地域学習や体験学習の充実及び地域の動植物について学ぶESD教育を推進している。以前から米作り、野菜作り、アユモドキの保護活動など様々な体験活動に取り組んできた。今年度も、自然と人とのかわりについての学習を次の2つのプロジェクトにまとめて、生活科や総合的な学習の時間で取り組んだ。

(1) 地域の自然・お宝発見プロジェクト (1, 2, 3年生)

1年生で花の世話、2年生で野菜と花作り、3年生では「宗堂桜」の学習や地域特産の「千種白鳳」の桃作り体験などに取り組んだ。その中で、地域の自然と農業のつながり、さらには自分たちの生活とのつながりを考えることができた。

(2) 自然と環境問題プロジェクト～共生・共存～ (4, 5, 6年生)

4年生で、ごみの処理施設やリサイクル施設を見学して身近な環境問題について関心を高め、5年生でアユモドキの人工繁殖に取り組んだ。そこで、生き物が生存していく上で必須の条件である環境の重要性を自らの活動の中で感じ取り、その経験を地域に向けて発信した。さらに、6年生では、生き物と環境とのつながりについて他の地域の様子を調べ、地域や地球の環境保全について産業との関係を含めて総合的に考えた。

2 取組の目的

本校では、地域の自然や環境問題についての知識を得るだけでなく、人と自然とのつながりについて考え、人と社会と自然とのバランスがとれた持続可能な社会づくりに積極的に貢献し、地域のリーダーとなる児童を育成する。そのために、2つのプロジェクトを通して、次のような能力や態度を育てた。

(1) 地域の自然・お宝発見プロジェクト (1, 2, 3年生)

花や野菜を栽培することによって、それらに生命があり成長することに気付くとともに、植物に愛着をもち、やさしく大切に作る心情と態度を育てた。地域の植物の見学や果物作りの体験をすることにより、地域の自然環境を生かして農業に従事している人々のくらしを理解し、地域社会の自然と農業を持続可能なものにするために何が必要かを考える力を育てた。

(2) 自然と環境問題プロジェクト～共生・共存～ (4, 5, 6年生)

ごみ処理施設等を見学を通して、人間の生活と自然環境とのつながりについて考えると共に、身体障害者や老人ホームの方々と交流をすることで、よりよい社会づくりのために自分たちの周りのできることをしようとする態度を育てた。また、アユモドキの人工繁殖による保護活動を通して、身近な開発と自然環境との関係について考え、社会・経済・自然についての問題を多面的に考え、課題解決に向けて探究する力を育てた。さらに、身近な環境問題・環境保全から、他の地域や地球全体に視野を広げ、世界が持続可能な発展をするために何が必要かを探求する力を育てた。



アサガオの観察 (1年)



サツマイモの収穫 (2年)



千種白鳳 (桃) の袋かけ (3年)



多聞荘の訪問 (花の寄贈) (4年)



アユモドキの人工繁殖（5年）



環境問題学習（6年）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項1-2, 2-1に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育(GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 自然・動植物愛護の精神、地域理解)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

パンフレット：「みんなで守ろうアユモドキ」
作成：岡山市教育委員会文化財課2016

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項1-2, 1-3に対応

学校教育基本計画の中において、学校教育目標を実現するための手段として、特色ある教育活動の一つに「地域学習・体験学習、ESD 教育の推進」を挙げ、アユモドキ、千種白鳳、宗堂桜などについて学年に応じて学習を行うようにしている。そして、学校経営計画を作成するに当たり、学校内外の環境分析において「+」の評価として挙げられた本校の自然環境や保護者・地域の方々の協力体制を基盤として、学校経営目標や計画に具体的に盛り込んで取り組んでいる。

指導内容については、年度末にそれぞれの学年の取組をまとめる中で、成果や課題を明確にし、教科横断的に次年度の学習に行かせるように、情報交換を密に行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項1-4に対応

本校は単学級であるため、教職員の数も少なく、各学年で行っている学習や活動について、日常的に情報交換を行うことで、互いに共通理解を図ることができている。また、本年度は教職員研修にESD教育を取り上げることで、理念や視点についても共通理解することができた。また、外部講師として専門の方を毎年お願いし、学習の進め方や育てたい力について打合せを行うことにより、担任が代わっても毎年同じ学習が行われ、6年間を通じて系統的に学習の成果があげられるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項1-5に対応

身近な自然や地域、世界とのつながりを意識し、その社会を持続していくための課題の発見や自分の関わり方を追究する2つのプロジェクトを通して、自分たちがこの地域社会の中で自然と共存しながら暮らしていることを、各学年の発達段階に応じて理解することができたように思う。今後も地域社会の担い手として持続可能な社会づくりに向けて、たとえ小さな活動でも主体的に取り組み発展させていこうとする子どもたちを育成していきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。
(200字程度) ※チェック事項2-2に対応

5年生においては、ポスターや劇、パンフレット等を作成し、校内や各家庭、地域の公共施設等（万富駅・万富公民館・瀬戸総合運動公園・キリンビール岡山工場）に配付したり、学習発表会で保護者に発表したりした。また、アユモドキの保護のために作成したグッズや劇をDVDにまとめ、亀岡市立保津小学校に寄贈した。4年生も環境保全のポスターを作成し、校内の各学級に掲示することで、他学年の児童にも自然愛護の精神を育てる一助とすることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
(200字程度)
※チェック事項2-3に対応

J A岡山東モモ部会及び地域住民による千種白鳳の桃づくり
岡山市教育委員会文化財課及び岡山淡水魚研究会の方々によるアユモドキ学習
京都府亀岡NPO法人「人と自然のネットワーク」及び京都府亀岡市立保津小学校との交流
神戸市立須磨海浜水族園との交流
キリンビール岡山工場の協力による花作り及びアユモドキ学習
社会福祉法人天摂会特別養護老人ホーム多聞荘との交流
ESDコーディネーター 原 明子さんによる教職員研修

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項2-4に対応

以前は岡山市立高島小学校との交流ができていたが、本年度は実施できていない。来年度は高島小学校と是非交流したいと思う。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

本年度だけの特筆すべき内容ではないが、今年も5年生の児童が絶滅危惧種のアユモドキについて学習することを通して、自然環境の保全や千種特有の動植物の保護についての意欲・関心を大きく育てることができた。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

(第1学年) アサガオを育てよう

アサガオの栽培・観察, 花で色水遊び, 種取り, 種のプレゼント

(第2学年) 野菜づくり・花づくり

夏野菜づくり, サツマイモづくり, 野菜とサツマイモの収穫, さつまいもパーティー, 花の苗植え

(第3学年) 千種の宝を見つけよう「宗堂桜」「千種白鳳」

宗堂桜についての学習, 桃づくりの学習, 花粉つけ体験, 千種白鳳の摘果・袋かけ体験, 収穫体験, 枝の剪定体験, 千種マップ作り

(第4学年) 「バリアフリーの世界をつくろう」「ごみ「0」大作戦」

福祉学習, 花づくり, クリーンセンター見学, 障がいのある人と交流, 多聞荘の訪問, 環境保全の呼びかけ, 学校周辺のごみ拾い, 高齢者の方との交流

(第5学年) アユモドキを守ろう(自然・動物との共生)

アユモドキの生態学習, 水辺の学習, アユモドキの人工繁殖, 飼育・観察, 稚魚の贈呈, 放流, 学習発表会, 他地域との交流

(第6学年) 人と環境のかかわりについて学ぼう(地域・世界との共生)

地球と人間のくらしの学習, 生き物のくらしと環境の学習, 世界の環境問題学習, キャリア教育, 学校貢献活動